

1. 研究主題

ふり返りの共有化と「学級づくり」「授業づくり」

丸亀市立飯山北小学校 原田 晃輔

2. 研究の具体と今後の課題

昨年度の研究では、平成29年告示の新しい学習指導要領を見据えて身体知（運動のコツ）の習得から運動技能の習熟へとつなぐ体育授業を構想し実践した。運動を通して共通体験した身体知は、言語として創発されることで学級・学年内で共有化され、運動技能の習熟へとつながった。

まず教材を工夫し、子どもが夢中になって関わりたくなる場面を作る。その授業のふり返りで、活動の成果と反省を基に次の活動の見通しを書かせ、その中から教師が意図的に選抜したものを示し、共有化を図ることで、子どもの主体的な学習活動を引き出すことができた。

今年度は身体知と知識との関係を探るために、予め運動に対する知識や練習方法を示し、その知識と自らの身体知をつなぐために、友達と交流しながら練習を進めていく学習と、知識のない状態から友達の様子を互いに観察し合うことで身体知を共有化し、知識へと高めていく学習の両方を実践した。また、体育で行ったふり返りの仕方を学級活動など全教科に広げ、体育以外の授業での効果について考察した。

1. 研究主題

小学校における特別支援教育コーディネーターの役割と機能の在り方について

高松市立屋島西小学校 中村 翼

2. 研究の具体と今後の課題

- ・本校の現状と特別支援教育体制について整理し、来年度に向けて本校に合った特別支援教育コーディネーターによる支援体制について検討することを目的とする。
- ・3人の特別支援教育コーディネーターを対象に質問紙調査を行い、特別支援教育コーディネーター自身の悩みを解決するためにどのようなことを必要と感じているのかを明らかにした。
- ・「保護者の理解」「コーディネーターの多忙さ」「校内支援体制の難しさ」「役割分担の難しさ」「支援の必要な児童の増加」「連携の難しさ」などと言った課題が見いだされた。
- ・校内支援体制を整備する上で、「コーディネーターを専任とする」「学校全体に関わる立場の教職員になる」ことなどコーディネーターとしての活動時間を確保するための仕組みや校内における立場や職務を明確にするなどの検討が必要である。あわせて、どの教員にとっても相談しやすい職員内の雰囲気づくりに努めていくことが大切であると考えます。

1. 研究主題

特別支援学校小学部における小集団SSTの取り組み

香川県立香川東部養護学校 住田 伸英

2. 研究の具体と今後の課題

- ・知的障害特別支援学校小学部の児童に対して、友達とのかかわりや気持ちの落ち着かせ方など学校生活に必要な社会スキルを知り、適切に活用する方法を学ぶことを目的に、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を用いた授業を実施し、その効果を検討した。
- ・4年、5年児童のうち他者とのかかわりにおいて困難さのみられる児童4名で小集団を構成し、すごろくゲームやロールプレイを取り入れた活動を行った。
- ・効果の評定は、SST尺度を用いて単元実施事前・事後の評定を実施し、児童2名の変容を比較した。
- ・評価の結果から、数字を数えて気持ちを落ち着ける、場面に合わせた挨拶などのパターン化した社会スキルやコミュニケーションスキルの獲得について、効果が見られた。
- ・今後の課題として学習で獲得した社会スキルを生活の中で活用する場面の検討が必要である。

1. 研究主題

好ましい人間関係を育む学級経営・道徳教育の組織的な取り組み
—アセスを活用した適切な児童理解と支援—

小豆島町立池田小学校 石井 久満

2. 研究の具体と今後の課題

好ましい人間関係を育むためには、適切な児童理解が必要である。それを学校全体で組織的に取り組むことで、多様で多角的な児童理解と具体的支援が行えると考える。本研究では、昨年度から、小学校におけるアセスを活用した児童理解と支援を学年団を基盤にして、総合単元的な道徳学習に取り組むことで対人的適応を高めることができた。本年度は、その実践を確かなものにするために、道徳教育推進チームをつくり各学期にテーマをもち、年間を通して、横断的な取り組みを意図的・組織的・協働的にして道徳教育の実践が充実するように取り組んでいる。また、児童理解を基盤とした学級経営や生徒指導、道徳教育を重ねて考えていくことで教職員の児童に対する理解がより適切で効果的な支援となりつつある。組織的・協働的な取り組みを行うために、共通理解の時間の確保と内容の改善などの業務改善は重要な課題である。

1. 研究主題

「聴き方」指導のPDCAサイクルと児童の聴く力の変容

三豊市立上高瀬小学校 宮本 陽子

2. 研究の具体と今後の課題

本研究の目的は、生涯にわたって必要なコミュニケーション能力の一つである、聴く力をもった児童を育成することである。「聴く力」を、相手が話しやすい聴き方【態度】、相手の思いを聴き入れたり、聴き出したりする聴き方【共感】とする校内研究テーマのもと、年間3循環の「聴き方」指導のPDCAサイクルを実践中である。聴く力の変容を、①「きくきく気持ちアンケート」の児童の自己評価と教師評価（ともに5月と11月）、②上小「聴き方カード」の評価と児童の振り返り（11月）から分析した。3学期も全校統一の指導と学級の実態に応じた指導の両面から継続する計画である。

P(計画) 校内研究テーマの決定と実践計画
D(実行) 1学期学習目標「聴いて話す」の実践
C(評価) ①5月、児童に「きくきく気持ちアンケート」実施
A(改善) 聴き方アップのための授業実践
学校要請訪問 10月11日
P(計画) 「表面的な聴く」から「内面的な聴く」へ
D(実行) 上小「聴き方カード」での授業実践
C(評価) 教師による上小「聴き方カード」の成果と課題
A(改善) 上小「聴き方カード」の改善
D(実行) 上小「聴き方カード(改)」での授業実践
C(評価) ①11月、児童に「きくきく気持ちアンケート」、
②上記に対する教師評価と「聴き方カード」の評価
A(改善) 3学期に向けて

【香川大学教職大学院の2つの特色】 ※共通科目として全員が学びます。

- ☆ 生徒指導と道徳教育に関する指導力育成
- ☆ 特別な教育的支援を必要とする通常学級在籍児童生徒に対する指導力育成



【3つのコース】

- ・学校力開発コース…学級経営・学年団経営や学校経営等、組織の中核的役割を担う教員の養成
- ・授業力開発コース…道徳教育や授業力向上等の学校課題解決に向けた中核教員の養成
- ・特別支援教育コーディネーターコース…特別支援教育に関わる校内体制構築の要となる教員養成

【短期履修学生制度(1年間で修了)】

教職経験 5年以上で県教育委員会からの推薦があり、審査によって認められた方は、所定のプログラムを実践することで、1年間の履修で修了することができます。経済的負担の軽減、学校現場を離れる期間の短縮など、現職の先生方が学びやすい環境を整えています。

修了後も、大学教員が学校を訪問し、学校課題の解決のために「学び続ける教員」の実践や校内研修等をサポートします。そして、修了後の学校での実践成果を、本日の学校発表または香川大学教職大学院ブースでの「フォローアップ・プログラム発表」として発表いたします。